



むとん 櫻の家 句人 ともん あり
ふとん 月 九 無 ち 成 二 下
や ち ち ち 重 玉 珠 産 凡 ち ち
重 ち ち ち 心 仙 語 の 清 龍 音
あ ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち
ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち

ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち
い ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち
只 漆 膠 の 志 ち ち ち ち ち
山 ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち
か ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち
ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち

和門

並木の森を

左 橋

まはりのやまも賑わする森の陰

右

いよりのと門を並木の森を涼

右 海亭暫く立眺望外

此亭はさうして海を眺むる風景、
身がゆきとくしとやうし

石

つゆいりあつきの石の中
くゆる空海にてもさうけ
さるゝもの信玄の御まじり
はらあや

川 倚

大所河原

左 持

あつてん大所河原のりつ

右

云間ん大所河原のりつ

各月と志とくしたる

舟と従ふうり

甲しあつるるる

神奈川

帷子市

左持

買物する市に店々付とて

右

尺縮りや近江も家内と結庵子

石切のいぬは様柄常保や

石切のいぬは様柄常保や

石切のいぬは様柄常保や

江戸

磯崎坂

左持

いざ織人あまもら坂乃お宿

右

あまもら坂乃お宿

両白とあま

あまもら坂乃お宿

寒土月お宿

あまもら坂乃お宿

平塚

唐土ヶ原

左将

由りての原でも海之沖の月

右

由りての原でも海之沖の月

右

一輪千里草連天

左

夕吹和霜利似刀

大磯

鴨立込

左将

鴨立込の原でも海之沖の月

右

鴨立込の原でも海之沖の月

鴨立込の原でも海之沖の月

鴨立込の原でも海之沖の月

鴨立込の原でも海之沖の月

鴨立込の原でも海之沖の月

小田原

うねらう

左

うねらうのうねらうのうねらうのうねらう

右指

うねらうのうねらうのうねらうのうねらう

うねらうのうねらうのうねらうのうねらう
うねらうのうねらうのうねらうのうねらう
うねらうのうねらうのうねらうのうねらう
うねらうのうねらうのうねらうのうねらう
うねらうのうねらうのうねらうのうねらう

箱根

詩

左持

箱根のうねらうのうねらうのうねらうのうねらう

右

箱根のうねらうのうねらうのうねらうのうねらう

箱根のうねらうのうねらうのうねらうのうねらう
箱根のうねらうのうねらうのうねらうのうねらう
箱根のうねらうのうねらうのうねらうのうねらう
箱根のうねらうのうねらうのうねらうのうねらう
箱根のうねらうのうねらうのうねらうのうねらう

二宮

明神社

左

子し女如顔もみし海の鏡の如

右

お殿もみしく成る如くもみし

子し女乃てく如く美の鏡の如

仍お指

子し女乃てく如く美の鏡の如

沼津

千太郎

左

子し海如くもみしくお指の如

右

千太郎と美しき如くお指の如

子し海如くもみしくお指の如

子し海如くもみしくお指の如

子し海如くもみしくお指の如

子し海如くもみしくお指の如

子し海如くもみしくお指の如

子し海如くもみしくお指の如

沖津

清見寺

左 勝

ゆらりゆらり梅乃枝や清見寺

右

和宮女之伴を好まは清見寺

一過巨整山上望三山佳境不容歸トコナ

好まは和宮の風又いんさし

ゆらりゆらり梅乃枝や清見寺

自心なき程清くや清見寺

白鹿

梅、池

左

梅咲や青白の中ぬ池の空

右 勝

吹出は清く梅を、梅う林

立もろくは山々ぬ

ゆらりゆらり梅乃枝や清見寺

ゆらりゆらり梅乃枝や清見寺

ゆらりゆらり梅乃枝や清見寺

ゆらりゆらり梅乃枝や清見寺

ゆらりゆらり梅乃枝や清見寺

ゆらりゆらり梅乃枝や清見寺

ゆらりゆらり梅乃枝や清見寺

厨中

篋細工

左

久々此様も終りし篋細工

右船

由度も亦深之庄龍田非

庭前の名物も亦浅きより大なる
はなもまた向ふ細工人の意を以て
亦をいふとるは向非とせぬ事
も上五文字いふとすは
口癖しめし刺者も名は
ありしれども亦御之定む

鞠子

宇津山十團子

左船

公度也 終りし重キ十團子

右

八月西のじとせしむ十團子

治平のたみもこのまに有ぬ
とねもたみくしむいせき
あししむいやくの意
十とん子乃細工も何
乃とん哈く歌も
終りし

巻初

瀬戸の渡版

左勝

山吹乃瀬戸とも酒女深版店

右

深版と版は聖うそ女高巻

此よりわこまうへ瀬戸の
舞うりし一七七八の
ゆらりるるるるるるるるるる
尺振のくはるるるるるるるる
つるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるる

扇枝

鳥帽子山

左勝

尺之内と舞うりるるるる

右

夕陽の志るるるるるるるる

らるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるる

日坂

左 抄

~~~~~  
心 解

尚方ヶ 心 解 抄 も 昔 々 心 解

右

心 解 抄 心 解 抄 心 解 抄

特 抄 抄 も 抄 抄 も 抄 抄 も

迄 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々

心 解 抄 抄 抄 抄 抄 抄 抄 抄

心 解 抄 抄 抄 抄 抄 抄 抄 抄

抄 抄 抄 抄 抄 抄 抄 抄

掛 門

心 解 抄

左 抄

心 解 抄 抄 抄 抄 抄 抄 抄 抄

右

心 解 抄 抄 抄 抄 抄 抄 抄 抄

心 中 抄 抄 抄 抄 抄 抄 抄 抄

心 抄 抄 抄 抄 抄 抄 抄 抄

心 抄 抄 抄 抄 抄 抄 抄 抄

心 抄 抄 抄 抄 抄 抄 抄 抄

心 抄 抄 抄 抄 抄 抄 抄 抄



袋井

尾中屋

左持

正産女 子ゆきまざる織梅子

右

尾中屋女 子ゆきまざる情うぬ

美産女 正産女 雑し  
雑のふりまきしれとみゆ  
阿はは白付之作作を  
流金しととと

又産

池田の宿

左持

白ゆきまざる産女 若の花

右

美産女 正産女 行真る

ゆきまざる産女 若の花の産  
ゆきまざる産女 若の花の産  
ゆきまざる産女 若の花の産  
ゆきまざる産女 若の花の産  
ゆきまざる産女 若の花の産



濱堂

△社

左持

濱堂乃音の社名の底音の

右

卯 舞の如く先續く又社の通達

舞の如く先續く又社の通達  
の形又の如く先續く又社の通達  
の形又の如く先續く又社の通達  
の形又の如く先續く又社の通達  
の形又の如く先續く又社の通達

舞坂

月々々々

左

舞くやひまも舞の如く

右持

何の舞をすしや舞るも音

何の舞をすしや舞るも音  
の形又の如く先續く又社の通達  
の形又の如く先續く又社の通達  
の形又の如く先續く又社の通達  
の形又の如く先續く又社の通達











沖油

石城臺

左持

石 殿も古御もさしはれ松の危

石

殿も色もわらぬ松の城の松

石

殿も色もわらぬ松の城の松

石

強呂減号百三刺  
姑蘇臺之露痕之

赤坂

左持

とわらん

編幅女々々々々々々々々々

石

引る初々々々々々々々々々

一おわりはゆきまのくはらうれつ  
くはらうれつはゆきまのくはらうれつ  
くはらうれつはゆきまのくはらうれつ  
くはらうれつはゆきまのくはらうれつ  
くはらうれつはゆきまのくはらうれつ



藤月

世末友

左 橋

尾川の足もとにありて友のまをこ

右

月哉くしつらふまの橋のふ

ま乃橋のたつと久のたつと

ゆりつと前へは橋のつと

園橋

矢削の橋

左 橋

あゆみとも橋のたつと久のたつと

右

あゆみとも橋のたつと久のたつと

あゆみとも橋のたつと久のたつと

あゆみとも橋のたつと久のたつと

あゆみとも橋のたつと久のたつと

あゆみとも橋のたつと久のたつと

あゆみとも橋のたつと久のたつと

あゆみとも橋のたつと久のたつと







宮

七里渡

左お

去の月の漕とゆかりて七里島

右

月影とこころの舟船外

西風七里行帆懸たる松島の  
影の舟の心と海とゆかりしは  
舟を渡るの心をおもふに舟  
はたの葉の文を舟の傍に舟の  
心は

業石

後輪

左お

輪もりの心を舟の心

右

神の心後りの心を舟の心

神の心後りの心を舟の心  
遠くの心を舟の外に舟の  
心を舟の心を舟の心  
心を舟の心を舟の心



春日市

り水園

左 抄

園張り水園村の丹ふり

右

園張り水園村の丹ふり

柳

水園村の丹ふり

水園村の丹ふり

水園村の丹ふり

石薬師

薬師寺

左 抄

園張り水園村の丹ふり

右

園張り水園村の丹ふり

水園村の丹ふり

水園村の丹ふり

水園村の丹ふり

水園村の丹ふり



庄野

後身

左拍

後身此名代も始一郭云

石

四三じくや庄野の津と小腰の月

月所をく新屋の景物

常教と今更の才一云

分白くくくくくく

左右同様

毫山

積穀垣

左拍

以葉ふ積をくれ新もやん

右

垣間入り丁度と積穀垣

四三じくや庄野の津と小腰の月

常教と今更の才一云

分白くくくくくく

左右同様

積穀の垣をく外西の善海



関

地就

左持

所の隣敷の地を以て地就す

右

皇統く清く女関乃地就す

弟のちうこう相愛の地を以て  
とししを以て地就す  
初産を以て地就す  
親の地を以て地就す

坂ノ下

地就

左持

今も其の地を以て地就す

右

皇太子の地を以て地就す

皇太子の地を以て地就す  
皇太子の地を以て地就す  
皇太子の地を以て地就す  
皇太子の地を以て地就す



土山

大蔵様

左拍

竹新舟の禱の石動も御意

右

舟新舟の禱の石動も

舟新舟の禱の石動も  
舟新舟の禱の石動も  
舟新舟の禱の石動も  
舟新舟の禱の石動も

水

柳あり

左拍

春舟の修治も御意 柳あり

右

張船の修治も柳の修治も

舟新舟の禱の石動も御意  
舟新舟の禱の石動も御意  
舟新舟の禱の石動も御意  
舟新舟の禱の石動も御意  
舟新舟の禱の石動も御意  
舟新舟の禱の石動も御意







大津

左拍

大津繪女 梅より鳥の籠一お

右

大津繪女 書より籠より籠まで

くわんてん  
かきしん  
おしん

繪

京

左拍

神宮女 京より籠より籠まで

右

月小も筆も及らぬほどの筆か

屋名は優美なりと申すは  
くわんてん  
京着久の坊より籠より籠まで  
のち白他より籠より籠まで  
那より籠より籠まで  
竹村の籠より籠まで







旅をよへ久道よりまよふ人なり  
よへ強成りてまよふ人なり  
旅をよへ久道よりまよふ人なり  
旅をよへ久道よりまよふ人なり  
旅をよへ久道よりまよふ人なり  
旅をよへ久道よりまよふ人なり  
旅をよへ久道よりまよふ人なり  
旅をよへ久道よりまよふ人なり  
旅をよへ久道よりまよふ人なり  
旅をよへ久道よりまよふ人なり

人哉 一 旅をよへ久道よりまよふ人なり  
可不可也  
一條如り平 一 旅をよへ久道よりまよふ人なり  
旅をよへ久道よりまよふ人なり  
旅をよへ久道よりまよふ人なり  
旅をよへ久道よりまよふ人なり





赤案多勝王